

# 広島別院だより

Vol.30  
秋号

真宗大谷派（東本願寺）  
広島別院教化委員会 発行

## 秋彼岸会が勤まる

九月二十三日に秋彼岸会が勤まりました。講師は北広島町の水野元師（安芸北組妙蓮寺住職）にお願いしました。以下、法話の抄録です。

### ●法要は生きる意味を問う場

法要は莊嚴（しょうごん）が整えられ、勤行があり、教えを説く人がいるだけでは成立しない。聞法者（教えを聞く人）がいて初めて成立するのである。様々な経典が伝わっているが、その冒頭は「如是我聞（によぜがもん）」また「我聞如是（がもんによぜ）」、つまり「私はお釈迦様からこのように聞きました」という言葉で始まる。これは、自らが主体的に生きる意味を教えに問うという事に重きが置かれているのである。

### ●仏教の歴史は聞法者の歴史

また、仏教は人生を「雑会（ぞうえい）」と説く。生きるという事は様々な事柄に出会っていくということである。コロナ禍という予想もしなかった時代を生きなければならぬように、その出会いは私たちの都合では選べない。しかし、その出会った事実をどう受け止めるかは私たちが選べるのだ。

親鸞聖人が仰がれた七高僧も思い通りにならない人生をいかに受け止めるかを仏教に問うた人たちであった。仏教は時代や国、文化



講師：水野 元師

を超えて常に、聞法者たちによってその歴史が作られてきたのである。

### ●私が念仏を称える＝仏が仏になる

阿彌陀仏は法藏菩薩と名のついていた時、「たった一人でも救われぬようなら私は仏に成らない」という誓願を立てられた。そして救いようのない者に対して「私の名を呼んでほしい」と願い、「南無阿彌陀仏」という名号を仕立てられた。その「南無阿彌陀仏」を私自身が称えることによって阿彌陀仏が真に阿彌陀仏となるのである。その阿彌陀仏の願いが永い時を経て、今、私にはたらきかけているのだ。

### ●念仏を称える身となったわけ

今日、念仏を称えているということは、ある日突然思い立って称え始めたわけではない。幼い頃から親の称える姿に導かれて私も称える身となったのである。阿彌陀仏の願いが、親をはじめ、代々教えを聞いてこられた人たちの歴史となり、今、私のもとに届いているのだ。その人たちもまた、生きる意味を教えに問うてきた聞法者であった。

### ●託されたリレーのバトン

今、私たちには「南無阿彌陀仏」というバトンが託されている。私たちが先祖に導かれたように、自ら教えを聞き、念仏申すことによって、次の世代に『お念仏のバトン』を手渡していければと思う。



## 真宗基礎講座が再開

八月二十九日

に真宗基礎講座



講師：三明智彰師

（第十回）が再開しました。コロナ禍のため四月の講座をやむなく中止しましたが、半年ぶりの開講となりました。講師の三明智彰先生は冒頭に蓮如上人の『疫癘の御文』（四帖目第九通）に触れ、先人たちが感染症の問題をどのように受け止めたかを話されました。

次いで十月三日開催の講座（第十一回）では、歎異抄第六章に触れ、人々が同じ信心で結ばれていたにも関わらず、派閥争いを起こしてしまう問題について話されました。

## 山陽教区坊守会一日研修会

十月五日、山陽教区坊守会一日研修会が開催されました。当別院の定例法話と併催となり沢山の皆さんが聴聞されました。

講師、長坂壽一師（安芸南組明慶寺住職）からは、様々なことを縁として、今、口から念仏のひとことが出ることが本望であると話されました。



# お寺のハテナ？

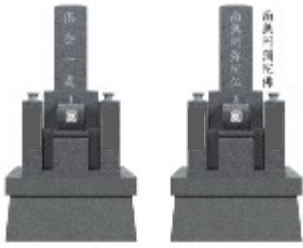
## 『お墓』 P.13



お墓の形や向き、たてる日取りなどを気にする人がいます。墓相が気になるからですが、墓相は全く根拠がありません。墓相家の言いなりになって、墓を改修することは意味のないことです。墓の形や大きさ、石の組み方などにこだわることはありません。

墓石の正面に「〇〇家先祖代々之墓」「〇〇家之墓」などと刻む事が多いです。しかし、真宗のお墓は亡くなった人を通して仏様のお教えに出会う場所ですから、「南無阿弥陀仏」の名号か「俱舎一処」と刻みましょう。「〇〇家」の家名は台石の正面に刻みます。梵字や仏種子は刻みません。また、お墓に故人の霊が宿っているわけではないので、「霊位」などの文字は必要ありません。

墓石に俗名などを刻まないわけではありませんが、法名碑（真宗では「霊誌」などの言葉は使いません）を作られても良いでしょう。



# 法座・講座等のお知らせ

## 12月19日(土) 真宗基礎講座 ～親鸞の生き方にたずねて～ (第3シーズン)

【講師】 三明智彰 先生 (九州大谷短期大学学長)

【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500円

【次回】 2021/2/13(土)、4/10(土)

〈親鸞聖人のご生涯をたずね、浄土真宗の教えの基礎を学ぶ講座です。〉



## 12月2日(水)・3日(木) 報恩講

【講師】 2日 長坂壽一 先生 (江田島市 明慶寺住職)

3日 谷川修真 先生 (東白島町 圓光寺住職)

【日程】 2日 14:00～勤行と法話 16:30～御伝鈔の拝読

3日 8:00～勤行と法話 10:00～勤行と法話

※この度の法要は、コロナウィルス感染防止対策として、雅楽は入りません。

〈親鸞聖人の御祥月命日を縁として勤めさせていただく浄土真宗の最も大切な法要です。〉

## 毎月5日 定例法話 (ご今日の集い)

【講師】 県内僧侶 (月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話 (15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日 (毎月5日) に法話会があります。〉

講座・法要・定例法話にお参りの際は、マスク等してコロナウィルス感染拡大防止にご協力ください。

# 道場樹

【編集室より】

寺院も「コロナ禍の影響を受けている。法座の中止や延期を余儀なくされ、事態が鎮静化しても再び寺に人が戻ってくるのかと、心配は尽きない。

先日、ある住職に聞いた話。緊急事態宣言中に「不要不急」の外出やイベント開催を控えるよう政府が呼び掛けていた頃、地域の住職たちと対応策を検討していると、ある人が「仏法聴聞は不要不急なのか？」とつぶやいたそうである。

確かに仏法を聞かずとも死にはしない。生死を分かたず事態を前にすれば「不要不急」と言えるだろう。しかし、本当にそうだろうか。

哲学者ウオーコップは人間の行動について「生きる行動」と「死を回避する行動」の二つに定義づけている。平たく言えば、「後悔せずに生きる」と「死なないように生きる」ということだろうか。

秋頃から各地で法座が再開され始めた。別院も出来る限りの対策をして法座を勤めている。「参詣者は来るのか?」という心配をよそに参詣は増えつつある。今、人々がコロナ禍を縁として「後悔せずに生きる」とことを模索し始めているのかも知れない。

(H・N)

真宗大谷派(東本願寺) 〒730-0044 広島市中区宝町 4-16  
 広島別院 明信院 Tel 082-241-5342(電話・FAX 共通)

東本願寺 広島別院

検索

